

熊本大学
永青文庫研究センター

年 報

第10号

2019

熊本大学永青文庫研究センター

はじめに

2018年度は、永青文庫研究センターが学内共同教育研究施設となって2年目にして、その活動が大きく進展した年となった。

研究面では、第一に、熊本藩主席家老の松井家から昭和30年代に熊本大学附属図書館に移管されていた膨大な文書群の目録作成を開始した。この熊本大学所蔵松井家文書は、八代市の財団法人松井文庫が所蔵管理する史料群が松井家「御家」の文書であるのに対して、家老としての職務遂行の過程で作成・蓄積されたものであるという特徴がある。すなわち、永青文庫の藩政史料や当主決裁文書群等と松井家文書とを併せて利用できる条件を整えば、代表的な国持大名である細川家の政治行政（統治）や意思決定過程の総体に迫ることができるようになる。調査には、熊本県内外の専門家の方々にもご協力いただいているが、この目録作成事業は、本学の類稀なる歴史文化資源を十分に活用するための条件を構築するものであり、本センターが担うべき固有の事業として位置づけられる。

第二に、第2期『永青文庫叢書』（吉川弘文館）5冊の刊行を開始したことである。2010年から2014年まで第1期5冊を出しているが、永青文庫には学界に共有されるべきまだまだ多くの貴重資料が存在している。それらに基礎的検討を加えて順次出版していくこの事業は、今後の本センターの活動の中核となるものである。

第三に、シンポジウム「熊本藩からみた日本近世—比較藩研究の提起—」の開催である。蓄積された熊本藩研究の成果を他藩等との比較のステージにあげて検討することで日本近世史像の全体に迫ろうとするシンポジウムであり、今後、多くの地域の研究者と協同して「比較藩研究」を進展させていくための端緒を得ることができたと自負している。

第四に、昨年度創刊した研究紀要『永青文庫研究』第2号の刊行である。永青文庫資料等を対象にした研究の着実な展開ぶりを呈示することができた。

社会貢献の面でも、熊本県立美術館と共催した展覧会「細川ガラシャ」、八代市立博物館未来の森ミュージアムに企画協力した展覧会「ザ・家老 松井康之と興長—細川家を支え続けた“忠義”—」などでは、図録や関連講演を通じて、長年の研究成果をひろく市民に還元することができた。

永青文庫研究センターは、本年報にまとめられたこれらの成果を新たな出発点として、スタッフ一同の協力のもとで、研究・社会貢献事業を引き続き発展させていく所存である。関係各位のご指導・ご鞭撻をお願いしたいと思う。

2019年3月4日

熊本大学永青文庫研究センター長
稲葉 継陽

目 次

はじめに	1
1. 年間活動記録	4
2. 年間活動報告	10
(1) 組織運営	10
(2) 研究活動	10
(3) 展覧会・講演会・社会貢献等	13
(4) センターの運営資金	15
3. センター教員の年間活動	16
4. 講演要旨	
(1) 稲葉 継陽	
日本史における諫言の機能と役割	22
(2) 今村 直樹	
近代日本の学校教育と熊本藩一藩校時習館から第五高等学校へ—	
.....	26

1. 年間活動記録

日付	活動内容	担当等
2018年4月5日	文科省ロビー展示の打合せ 熊本県立美術館山田氏と打合せ	稲葉・広報戦略室 稲葉
4月9日	東京出張、日本学術会議分科会にて報告	今村
4月10日	NHK 北九州甲谷氏取材、撮影 附属図書館との打合せ	稲葉 稲葉・浜崎（図書館）
4月16日	平成31年度概算要求打合せ ゼロックス担当者打合せ	稲葉・今村・浜崎（図書館） 稲葉
4月17日	スタッフミーティング ソフトシンク、ホームページ打合せ	センタースタッフ 今村・中原
4月18日	広報戦略室、文科省ロビー展示打合せ	稲葉
4月19日	大矢野種康氏来訪 熊本市災害対策課担当者と打合せ 熊本県立美術館山田氏と打合せ	稲葉・今村 稲葉 稲葉
4月21日	大阪出張、経済史研究会報告	今村
4月24日	熊本県文化課担当者と打合せ	稲葉
4月25日	文科省ロビー展示打合せ（附属図書館）	稲葉・富士ゼロックス担当者
4月26日	熊本史料ネット事務局会議	稲葉・今村
4月29日	NHK スペシャル「シリーズ大江戸第1集 世界最大!!侍が築いた“水の都”」(NHK 総合)放送	
5月1日	神奈川出張、資料調査・研究報告・打合せ 熊本日日新聞取材	今村 稲葉
5月6日	史料レスキューネットワーク主催「被災史料が語る日本近世・近代史」講演会	稲葉・今村・後藤
5月9日	熊本県立博物館ネットワークセンターと打合せ	稲葉
5月14日	富士マイクロと打合せ	今村
5月15日	熊本県文化財保護協会総会にて講演	稲葉
5月16日	熊本県文化課担当者と打合せ	稲葉
5月17日	東京出張、文科省ロビー展準備 永青文庫理事長と研究打合せ	稲葉・後藤 稲葉・後藤
5月18日	文科省情報ひろば企画展示「近世熊本城の被災と修復」(~6月22日)及び講演会	稲葉・後藤
5月21~25日	松井家文書目録作成調査	20名
5月24日	読売新聞取材	稲葉

日付	活動内容	担当等
5月25日	緒方家文書を九州国立博物館から返却	今村
5月31日	高橋酒造 高橋光宏社長来訪 研究推進課と打合せ	稲葉・今村 稲葉
6月4日	熊日広告社と打合せ 熊本史料ネット監査	稲葉 今村
6月5日	熊本史料ネット総会・事務局会議	今村
6月6日	富士マイクロ担当者打合せ	稲葉
6月9~11日	東京出張、明治維新史学会大会出席・資料調査	今村
6月11日	文化財保存計画協会と打合せ	稲葉
6月14日	熊本県文化課長来訪	稲葉
6月15日	ハーバード大・アンドルーゴードン教授来訪・視察 他7名（於図書館） 社会連携課担当者と打合せ	稲葉・今村・後藤 稲葉
6月19日	松井家文書調査（於八代市立博物館） KAB、高麗門遺跡追加指定に関する取材	今村 稲葉
6月25~29日	松井家文書目録作成調査	13名
6月28日	北九州市民講座講演会（於小倉）	稲葉
6月29日	天草棚底城跡保存活用委員会（於熊本県庁）	稲葉
6月30日	肥後里山ギャラリー講演会 永青文庫研究センター運営委員会	稲葉 稲葉・今村
7月12日	松井家文書修復（富永米山堂）打合せ	今村
7月18日	永青文庫林田理事・井戸下事務長来訪	稲葉
7月19日	永青文庫にて研究・出版・展覧会打合せ（東京）	稲葉
7月21日	手永研究会参加（九州大学）	稲葉
7月21日	出張、資料調査（静岡）・近現代史研究会参加（名古屋）	今村
7月23~27日	松井家文書目録作成調査	17名
7月24日	熊本県文化課と打合せ	稲葉
7月27日	国際戦略課担当者と打合せ	稲葉
7月30日	東京出張、永青文庫理事打合せ 永青文庫基金活用委員会出席	稲葉 稲葉
8月2日	熊本史料ネット事務局会議	稲葉・今村
8月4日	展覧会「細川ガラシャ」開催、開会式出席	稲葉・今村・後藤
8月5日	博物館ネットワークセンター講演会にて講演	今村

日付	活動内容	担当等
8月6日	熊本県文化課と打合せ 熊本日日新聞社取材	稲葉 稲葉
8月7日	熊本さわやか大学校講義（於八代）	稲葉
8月10～11日	日印朝科研メンバー来訪 矢部・中央町巡見	稲葉・今村
8月21～24日	松井家文書目録作成調査	13名
8月21日	兼瀬氏（元清和村長）来訪 熊本県立美術館山田氏と打合せ	稲葉 稲葉
8月23日	熊本さわやか大学校講義（於熊本）	稲葉
8月24日	博物館ネットワークセンター講演打合せ 文化財レスキュー定例会出席	今村 今村
8月27日	熊本日日新聞社取材	稲葉・今村
8月29日	西日本新聞、熊本日日新聞社取材	稲葉
8月31日	大西熊本市長来訪・資料見学 東京出張、史料調査	稲葉・後藤 今村
9月3日	熊本日日新聞社取材	稲葉
9月8日	「細川ガラシャ」展特別講演	稲葉 聴講者350名
9月12日	熊本県文化課の清正公道調査担当者と打合せ RKK取材	稲葉 今村
9月13日	熊本県立美術館山田氏と打合せ 博物館ネットワークセンター講演打合せ	稲葉 今村
9月15日	肥後の里山ギャラリーにて講演	稲葉
9月20日	富永米山堂と打合せ	今村
9月22日	東北大学曾根原氏来訪	今村
9月23日	永青文庫古文書セミナー（於永青文庫）	稲葉・後藤
9月25～28日	松井家文書目録作成調査	12名
9月25日	熊本日日新聞飛松記者取材	稲葉
9月28日	岩手大学木村氏来訪、センターを取材	稲葉
10月4日	読売新聞社取材 朝日新聞プロフェッサービジット講義（福岡・城東高校）	今村 稲葉
10月7日	明治維新150年シンポジウムにて講演	今村
10月12日	永青文庫林田理事・上野氏来訪 庭園サミット対談（水前寺成趣園）	稲葉・後藤 稲葉
10月17日	熊本日日新聞社取材 熊本城調査研究センター木下氏と打合せ	稲葉 稲葉

日付	活動内容	担当等
10月19日	特別展「ザ・家老」開会式出席（八代市立博物館） 文化財レスキュー定例会出席 熊本史料ネット事務局会議	稲葉・後藤 今村 稲葉・今村
10月21日	動産文化財レスキューシンポジウムにて講演	稲葉
10月22～26日	松井家文書目録作成調査	11名
10月27日	「ザ・家老」特別講演（於八代市立博物館）	稲葉 聴講者150名
10月28日	シンポジウム「熊本藩から見た日本近世」 打合せ	今村・小関・白石・神谷・高槻
10月29日	修理工房宰匠と打合せ	今村
10月30日	名古屋大学羽賀祥二氏他2名来訪、史料閲覧	今村
10月31日	熊本市防災講座講演 J:COM 研究紹介映像撮影	稲葉 稲葉・後藤
11月2～4日	第34回貴重資料展「永青文庫に見る『旅』」開催	
11月3日	第13回永青文庫セミナー開催	竹島 聴講者80名
11月4日	武夫原会大同窓会講演会	今村 聴講者160名
11月5日	水前寺成趣園復旧整備検討委員会	今村
11月6日	スタッフミーティング	センタースタッフ
11月10日	名古屋出張、近現代史研究会報告	今村
11月11日	西原一町内文化祭講演	稲葉
11月12～13日	東京大学史料編纂所山口・林所員来訪、資料調査	
11月13日	資料整理会打ち合わせ（於博物館ネットワークセンター）	今村
11月14日	富士マイクロと打合せ	今村
11月15～16日	東舞鶴出張、史料調査	稲葉
11月15日	國津英愛氏来訪	今村
11月16日	九文研上崎氏来訪	今村
11月21～22日	文化財レスキュー資料整理会（於博物館ネットワークセンター）	今村
11月22日	八代出張、八代市立博物館長訪問、史料調査	稲葉・後藤
11月26～30日	松井家文書目録作成調査	13名
11月27日	北九州市講演について打合せ	稲葉
11月30日	熊本史料ネット事務局会議	稲葉・今村

日付	活動内容	担当等
12月5日	文化庁調査官と打合せ、貴重書庫視察 熊本日日新聞酒森記者取材	稲葉・後藤 稲葉
12月8日	東京出張、舞鶴市講演（於東洋大学白山キャンパス） 熊本史学会秋季大会報告	稲葉 今村
12月10日	人文研究機構会議	稲葉
12月12日	国立歴史民俗博物館西谷・天野氏と打合せ	稲葉・今村
12月13日	富永米山堂と打合せ	今村
12月14日	熊本大学研究フェア講演 文化財レスキュー定例会出席	稲葉 今村
12月15日	熊本被災史料レスキューネットワーク主催シンポジウム 「被災史料が語る井出古墳―未指定文化財と国指定史跡とのあいだ―」開催	稲葉・今村・後藤
12月17日	富永米山堂と打合せ	今村
12月18日	カマノ商会と打合せ	今村
12月20日	肥後の里山ギャラリー小堀氏来訪 カマノ商会と撮影打合せ 永青文庫林田常務理事・井戸下事務長と打合せ	稲葉 今村 稲葉
12月22～23日	シンポジウム「熊本藩から見た日本近世」準備会	稲葉・今村
2019年1月7日	コロニー印刷と打合せ	今村
1月9日	カマノ商会と打合せ	今村
1月16日	シモダ印刷、コロニー印刷と打合せ	今村
1月17日	読売新聞社取材	今村
1月21～25日	松井家文書目録作成調査	13名
1月22日	西原村矢野家文書返却	稲葉・今村
1月23日	熊本市立博物館木山氏と打合せ	今村
1月25日	熊本県文化課担当者と打合せ デジタルアーカイブ委員会出席 永青文庫研究センター運営委員会出席	稲葉 今村 稲葉・今村
1月26日	東京出張、永青文庫セミナー講演 近代細川家史料調査	稲葉・今村・後藤 稲葉・今村・後藤
2月1日	NHK「英雄たちの選択」撮影打合せ	稲葉
2月5日	九州森林管理局資料調査	今村・青木（県立図書館）
2月6日	みらい研究推進事業プレゼンテーション	稲葉

日付	活動内容	担当等
2月8日	和歌山史料ネット橋本氏来訪 カマノ商会と打合せ	稲葉・今村 今村
2月9日	肥後の里山ギャラリー講演 九州文化財研究所シンポジウムにて講演	稲葉 今村
2月13日	熊本県立美術館山田氏と打合せ 熊本県文化課担当者と打合せ	稲葉 稲葉
2月14日	古閑家（史料所蔵者）訪問、打合せ	今村
2月18～22日	松井家文書目録作成調査	13名
2月22日	文化財レスキュー定例会出席	今村
2月25日	熊本さわやか長寿大学にて講演（於人吉）	稲葉
2月27日	日本学術会議九州沖縄地区会議講演（熊本大学）	稲葉
3月2・3日	シンポジウム「熊本藩から見た日本近世―比較藩研究の提起―」開催	稲葉・今村・後藤
3月5日	志内家文書整理（於熊本博物館） NHK「英雄たちの選択」撮影 熊本史料ネット事務局会議	今村 稲葉・後藤 稲葉・今村
3月6日	神奈川史料ネットメンバー訪問、熊本史料ネットを取材 熊本日日新聞社取材	稲葉・今村 今村
3月7日	豊岡短期大学山本氏来訪	稲葉
3月9日	東京出張、永青文庫にて研究打合せ	稲葉・今村
3月11日	熊本県立美術館山田氏来訪し展示作品搬出 熊本日日新聞社取材	稲葉 稲葉
	文化財レスキュー資料整理会打合せ（於博物館ネットワークセンター）	今村
3月16日	舞鶴出張、講演・史料調査	稲葉
3月23日	東京出張、歴史学研究会中世支部会運営委員会出席、研究打合せ	稲葉
3月24・25日	大阪出張、「公議」研究会出席	今村
3月26・27日	文化財レスキュー資料整理会（於博物館ネットワークセンター）	今村

2. 年間活動報告

(1) 組織運営

本年度の運営は、主として専任教員の稲葉継陽教授、今村直樹教授が担い、兼務教員として竹島一希准教授、三澤純准教授、安高啓明准教授がこれに協力した。また後藤典子特別研究員が基礎研究分野での古文書解読等を担うとともに、科学研究費補助金基盤研究（B）（研究代表者・稲葉）によって雇用されている社会文化科学研究科及び文学部の学生も、史料のデータ化等の実務にたずさわった。

上記のスタッフによるミーティング、永青文庫研究センター運営委員会を通じての運営は、おおむね円滑に進められた。

特筆すべきは、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館と当センターとが連携・協力協定を締結する準備が整ったことである。連携・協力事項としては研究・教育・社会貢献全般に及び、具体的には当センター所蔵文書の公開や熊本地震以後にレスキューされた地域史料のデータ化などの推進について、資することになろう。

なお、稲葉センター長は本年度末に二年の任期を終えるが、2019年1月開催の永青文庫研究センター運営委員会にて再任が認められ、2019・2020年度をつとめることとなった。

(2) 研究活動

1) 永青文庫細川家資料の画像データ蓄積と分析

本年度は永青文庫細川家資料の藩政史料について、新たな画像データの蓄積を行った。

永青文庫資料細川家資料の中からは、細川忠利から各方面への出簡の控えをリアルタイムで記録した「公儀方御書案文」、近世後期の藩政・地域行政関係史料群の撮影を実施した。

撮影した画像データは本年度から5か年計画で刊行されている『永青文庫叢書 細川家文書』の出版に活用されるとともに、基礎研究の一層の推進のための基礎データとして分析が深められることになる。

2) 初期藩政冊子史料の解析

近世初期永青文庫細川家文書の総合的解析による藩政確立過程の研究を推進するため、17世紀前半までの冊子体の藩政史料群について、一冊ごとの内容の細目録を作成することを通じて、その全容を詳細に明らかにし、併せて近世大名領国における藩政の形成過程を解明する研究事業である（科研費基盤（B）：近世初期永青文庫細川家文書の総合的解析による藩政確立過程の研究：研究代表者・稲葉）。

2015年度から開始された本研究の成果として、2019年2月末の時点で、元和～寛永期（細川忠利代）の書状案等15,000点の目録が作成された。

なお、この基礎研究の成果を活用した一般向け書籍として稲葉継陽『細川忠利 ポスト戦国世代の国づくり』が2018年8月に吉川弘文館から刊行された。

3) 熊本大学所蔵松井家文書の目録作成・修復・画像データ蓄積作業

熊本藩の首席家老の地位にあった松井家は、近世初期の当主松井康之の時代から明治初期の廃藩置県に至るまで、一貫して肥後細川家を支え続けた。同家に蓄積された膨大な古文書・古記録のうち、約40,000点は熊本大学に譲渡・寄贈され、現在は附属図書館内の貴重書庫で保管されている。

松井家文書は、永青文庫細川家資料とならぶ第一級の歴史資料群であり、永青文庫研究センターでは本年度から、本史料群を活用できる環境整備のために概算要求（機能強化分・プロジェクト分）を得て、①目録作成、②修復、③画像データの蓄積作業にそれぞれ着手した。

①の目録作成では、県内外から専門家を集めて、一週間の集中調査を附属図書館で9回実施した（総日数44日、延べ人数320人）。その結果、約3,300点の目録を作成することができた。本年度の調査では、慶長13年（1608）の駿府城普請の現場における細川家中の掟書、寛永15年（1638）島原一揆における原城落城直後の山狩りを命じる細川忠利書状写、寛文6年（1666）の藩財政の詳細な収支見積を示した目録など、非常に貴重な史料を多く発見することができた。これらはすべて新出史料である。

②の修復作業では、学術的価値が高い史料のうち、保存状態が悪いものの8点を専門業者に依頼し、修復することができた。

③の画像データの蓄積作業では、一紙文書を中心に約6,000点を撮影することができた。

これら三つの作業は、来年度以降も継続して行っていく予定である。

4) 第2期永青文庫叢書の発刊

永青文庫研究センターは、文学部附属時代である2010年から2014年にかけて、『細川家文書 中世編』、『細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅰ』、『細川家文書 近世初期編』、『細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』、『細川家文書 故実・武芸編』という5冊の永青文庫叢書を刊行した。これは、永青文庫細川家資料からとくに学術的価値が高い古文書・絵図類を図版入りで刊行したもので、学界などから高い評価を得ている。

以上の第1期に引き続き、本年度から第2期の永青文庫叢書の刊行を開始した。本年度吉川弘文館から刊行した『細川家文書 熊本藩役職編』には、近世中期から後期にかけた熊本藩役職に関わる文書13点が収録されている。序文は公益財団法人永青文庫理事長の細川護熙氏、跋文は稲葉継陽センター長、解説は今村直樹准教授が執筆した。本書収録の史料からは、多様な軍事・政治・家政組織から構成される熊本藩の職制機構を看取できるとともに、その下で個々の役職についた諸役人の具体的な服務規程について知ることができる。「藩／藩政とはなにか」という日本近世史研究の基本問題を考える上で、格好の素材となろう。

永青文庫研究センターでは、本書に引き続き、来年度以降も「島原・天草一揆編」「地域行政編」「意見書編」「災害史料編」と、年に一冊ずつ続刊の予定である。

5) シンポジウム「熊本藩からみた日本近世—比較藩研究の提起—」の開催

日本近世史研究では、「藩」をめぐる研究が全国的に大きな盛行をみせている。しかし、現在の研究状況では、個別具体的な「藩」研究の成果が、他の地域あるいは他の時代との比較の

もといかなる普遍性を持ち、いかなる特性を帯びたものなのか、研究者間でも十分な共通認識が得られているとは言い難い。永青文庫研究センターではこのような研究状況を鑑み、全国の近世史研究者を結集したシンポジウムを開催し、熊本藩研究からみた日本近世史像を、時代(17~19世紀)や分野(藩政史・経済史・地域社会史・幕末政治史)ごとに描き出すことを試みた。

本シンポジウムは、2019年3月2・3日の二日間、熊本大学全学教育棟を会場として開催した。内容は以下の通りである。参加者は約180名に及び、県内外から多くの参加者を得て、非常に好評であった。

問題提起「熊本藩からみた日本近世」今村 直樹(熊本大学)

第Ⅰ部 研究報告

初期細川家中の構成と変容 稲葉 継陽(熊本大学)

大坂金融商人の成長と領国経済 高槻 泰郎(神戸大学)

近世中後期における藩政理念の展開と変容 小関 悠一郎(千葉大学)

近世中後期藩領国の地方行政と荒廃農村対策 今村 直樹(熊本大学)

幕末期熊本藩の相州警衛と村々取締役 神谷 大介(東海大学)

肥後藩における京都留守居 白石 烈(宮内庁書陵部)

第Ⅱ部 パネルディスカッション

コメント：金森 正也(秋田県公文書館)

木越 隆三(石川県金沢城調査研究所)

高木 不二(大妻女子大学)

安高 啓明(熊本大学)

司会進行：三澤 純(熊本大学)

6) 紀要『永青文庫研究』第2号の刊行

学内共同教育研究施設となった昨年度は紀要『永青文庫研究』を創刊したが、今年度はその第2号を刊行した。

『永青文庫研究』第2号には、論文3本、研究ノート1本、史料紹介2本、書評1本を収録することができた。永青文庫研究センタースタッフはもちろんのこと、学外の研究者からの寄稿もあり、非常に充実した紙面となった。目次は以下の通りである。

論文

近世初期における百姓の法的地位と村共同体

—鳥原一揆後の地域復興をめぐる— …… 稲葉 継陽

鳥原・天草一揆以前における肥後細川家のキリスト教政策(上) …… 後藤 典子

近世中後期の地域財政と地域運営財源

—熊本藩を事例に— …… 今村 直樹

研究ノート

肥後細川家と天龍寺真乗院・細川紹高家

—永青文庫所蔵「真乗院口上書」に関する基礎的研究— …… 林 晃弘

史料紹介

『御穿鑿所引取書達控(抄録)』(一) …… 安高 啓明

川端 駆

金納御手伝普請をめぐる熊本藩の対幕府交渉記録(続)

—天明八年「御用金一件」について— …… 高槻 泰郎

書評

稲葉継陽著『細川忠利 ポスト戦国世代の国づくり』 …… 谷 徹也

(3) 展覧会・講演会・社会貢献等

1) 第34回 熊本大学附属図書館貴重資料展「永青文庫本に見る『旅』—細川幽齋文学書を中心に—」(2018年11月2日~11月4日、熊本大学附属図書館と共催)の開催

2) 第12回 永青文庫セミナー 竹島一希「永青文庫と『旅』」(2018年11月3日、熊本大学附属図書館と共催)

本年度の貴重資料展は、本センター兼務教員の竹島一希准教授が担当し、細川幽齋筆「十六夜日記」や同「九州道の記」「吾妻道の記」など、幽齋文学書を中心に、古典文学における「旅」のイメージを紹介する展示を行った。

永青文庫セミナーは、展示を担当した竹島准教授が、幽齋の豊臣政権における役割にも触れながら、古典文学における「旅」のイメージを展開した。

貴重資料展の入場者数は345名、永青文庫セミナーの来聴者は81名であった。

3) 文部科学省情報ひろば特別展示「近世熊本城の被災と復興」(2018年5月18日~6月22日)の開催

2016年4月の熊本地震で甚大な被害を受けた熊本城の姿は、「史上最大級の文化財被災」として全国に衝撃を与えた。しかし、永青文庫細川家の文献資料を調査してみると、熊本城はすでに加藤家時代から地震等によって被災し、その修復が細川家にとっても大きな課題となったことが判明した。本展覧会は、前年度開催の熊本大学附属図書館貴重資料展の内容をもとに、細川忠利の城主時代(1632~1641)に焦点をしぼり、熊本城の修復への取組みや、城の管理のあり方を、藩政・幕藩関係史料によって示したパネル展である。

初日の5月18日には稲葉センター長の講演があり、くまモンも応援に駆け付け、熊本城等文化財の復旧・復興に協力を呼び掛けた。

当センターの熊本地震後の実践的な取組みを文科省関係者にも発信する機会としても、貴重な特別展示となった。

4) 熊本県立美術館 永青文庫展示室開室10周年 RKK開局65周年記念展「細川ガラシャ」(2018年8月4日~9月24日)の開催

細川家ゆかりの名品をいつでも観覧できるスペースとして親しまれている熊本県立美術館永青文庫展示室は開設10周年を迎えたが、本展はそれを記念する特別展として企画され、本センターも共催に加わった。

細川忠興に嫁いだ明智光秀の娘・玉はガラシャの洗礼名で知られ、父が本能寺の変を起こしたために幽閉され、やがてキリスト教を熱心に信仰するようになり、関ヶ原合戦の直前に悲劇的な最期を迎える。本展は、戦国乱世の激動と華やかな桃山文化を時代背景としつつ、ガラシャの動静を示す歴史資料やゆかりの品々を一堂に集め、100点を超える作品群でその実像に迫った。

本センターも、かつて2010年に刊行した『永青文庫叢書 細川家文書 中世編』以来の研究成果をもとに、稲葉・後藤が図録制作に協力した。また、永青文庫研究センター所蔵の細川忠興書状を展示作品として提供することができた。

また、稲葉センター長が本展に関連する特別講演「新・明智光秀論」を担当し、350人の来聴者があった。

展覧会・講演会ともに、本センターの長年の研究成果を社会に還元する機会として意義深いものとなった。

5) 平成30年度秋季特別展覧会「ザ・家老 松井康之と興長—細川家を支え続けた“忠義”—」(2018年10月19日～11月25日)の企画協力

本展は、戦国乱世を生き延び、肥後一国を治める大名となった細川家を家老として支えたのが松井康之(1550-1612)とその子興長(1582-1661)の活躍ぶりを示す多数の歴史資料等によって構成された展覧会で、本センターも企画協力に加わった。

戦国時代末期、細川家初代藤孝に召し抱えられた康之は、一度も離反することなく、細川家に仕え、戦場で生命の危険にさらされても裏切らず、藤孝から冷遇されても細川家のために奔走し、秀吉から大名取り立ての誘いを受けても細川家に留まった。無双の武勇でもって細川家を存続させた、まさに戦国型家老の典型であった。

一方、康之のあとをついだ興長は、80歳で没するまでの50年間にわたって家老をつとめ、4人の藩主に仕えて、ことあるごとに諫言を行い、藩主の統治者としての人格形成に寄与した。御家存続のため、主君を器量ある藩主に育てあげるのが興長の忠義のあり方であった。

本展には、永青文庫研究センターの目録作成過程ではじめて内容が把握された松井興長の諫言状や遺書なども展示され、基礎研究の成果を社会に還元することができて点で意義深いものであった。

なお、稲葉センター長が本展図録に「松井興長の諫言—その論理と役割—」を寄稿し、会期中の企画として特別講演「日本史における諫言の機能と役割—松井興長を中心に—」を行った。

6) 稲葉継陽『細川忠利 ポスト戦国世代の国づくり』(吉川弘文館、2018年8月)出版

2012年に文学部附属永青文庫研究センター編で刊行した『永青文庫叢書 細川家文書 近世初期編』(吉川弘文館)の編集にかかる基礎研究の成果は、翌年『熊本日日新聞』に10回にわたって連載された稲葉継陽「細川忠利 ポスト戦国世代の国づくり」によって、熊本地域の市民にひろく発信された。本書の出版は、この連載をもとにしてまとめられ、一般読書人向けに出版された。「読売新聞」書評欄、「産経新聞」一面コラム(山内昌之氏)などに取り上げられた。

本書には、科学研究費補助金基盤研究(B)「近世初期永青文庫細川家文書の総合的解析による藩政確立過程の研究」(研究代表者・稲葉)の成果を含む。本センターの基礎研究の成果をひろく発信する点で、意義のある出版であった。

7) メディアへの協力

NHKなどテレビ局の番組制作(「NHKスペシャル」、「英雄たちの選択」)に協力した。本年報の「年間活動記録」の欄を参照されたい。

このうち、「NHKスペシャル シリーズ 大江戸 第1集 世界最大!! サムライが築いた“水の都”熊本城再建 “サムライの英知”を未来へ」は、江戸時代初期の公儀江戸城普請によって江戸の城と町が構築される様子を再現した番組で、今村准教授が永青文庫の公儀江戸普請関係史料を紹介し、伊豆の大名石切り場跡等でのロケにも協力した。本番組は、東京オリンピックを控えて江戸・東京の成り立ちを歴史的に捉えて発信するもので、その中で永青文庫の公儀普請関係史料の価値を示すことができた点は意義深かった。

8) その他

本センターの専任教員及び兼務教員は、それぞれの永青文庫資料等の研究成果の普及のための講演を数多く担当した。本年報の「3. センター教員の年間活動」欄を参照されたい。

(4) センターの運営資金

本年度の永青文庫研究センターの運営資金は、主に以下の事業費等によった。

- 1) 文部科学省 機能強化経費(プロジェクト分)
- 2) 文部科学省 共通政策課題(文化的・学術的な資料等の保存等)
- 3) 日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(B)
- 4) 熊本大学 みらい研究推進事業
- 5) 熊本大学 学長裁量経費

3. センター教員の年間活動

稲葉継陽 各種委員会

人吉城跡調査検討委員、宇土城跡調査検討委員、菊之城史跡調査検討委員（菊池市）、棚底城跡整備検討委員（天草市）、上天草市史編纂委員、公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金理事、熊本県文化財保護審議委員、平成30年被災文化財等復旧復興基金配分委員（熊本県）

著書

・『細川忠利 ポスト戦国世代の国づくり』（吉川弘文館、2018年8月、全243頁）

論文等

- ・「明智光秀論」（熊本県立美術館図録『細川ガラシャ』2018年8月、pp.194-202）
- ・「戦国社会研究の現状と細川忠利」（『本郷』No.137、2018年9月、pp.29-31）
- ・「松井興長の諫言—その論理と役割—」（八代市立博物館図録『ザ・家老—松井康之と興長—』2018年10月、pp.114-117）
- ・「近世初期における百姓の法的地位と村共同体—島原一揆後の地域復興をめぐって—」（永青文庫研究センター紀要『永青文庫研究』2019年3月、pp.1-26）
- ・「『緒方家文書』の近世中期地域行政関係書状群について」（熊本大学文学部日本史学研究室『2018年度 古文書学実習調査報告書XIV』2019年3月、pp.4-8）

研究発表

- ・「初期小倉藩・熊本藩の手永制と惣庄屋」日本・インド・朝鮮比較史科研費研究会（研究代表者：東京大学松本武祝教授）、2018年8月10日、熊本大学
- ・「初期細川家中の構成と変容—知行制・上方米市場・請免制—」永青文庫研究センター主催「シンポジウム 熊本藩からみた日本近世」、2018年3月2日、熊本大学

講演

- ・「危機を乗り越えた人々—江戸時代熊本の地域復興と社会—」熊日日新会総会講演、2018年4月13日、熊本日日新聞社本館
- ・「細川家臣築山家の文書と日本近世史研究」熊本被災史料レスキューネットワーク講演会「学んで守ろう熊本の歴史遺産」#4 被災史料が語る日本近世・近代史、2018年5月6日、熊本県立美術館
- ・「近世熊本の地域社会と国家そして歴史資料—震災後の文化財レスキューの経験から—」熊本県文化財保護協会総会、2018年5月15日、熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール大会議室
- ・「近世熊本城の被災と復興」、文部科学省情報ひろば特別展示講演、2018年5月18日、文部科学省
- ・「近世熊本の被災と復興—熊本城と地域社会—」北九州市民カレッジ講座 郷土に生きた人・コト物語 特別講演、2018年6月28日、北九州市生涯学習総合センター
- ・「明智光秀論」里山ギャラリー歴史・文化講座2 肥後細川家と天下人たち1、2018年6月30

日、肥後の里山ギャラリー

- ・「近世熊本の地域社会と国家そして歴史資料」、熊本さわやか大学校、2018年8月7日、やつしろハーモニーホール（八代市）
- ・「近世熊本の地域社会と国家そして歴史資料」、熊本さわやか大学校、2018年8月23日、熊本県総合福祉センター
- ・「新・明智光秀論」細川ガラシャ展 特別講演、2018年9月8日、熊本県立美術館
- ・「細川家と『関ヶ原』」里山ギャラリー歴史・文化講座2 肥後細川家と天下人たち2、2018年9月15日、肥後の里山ギャラリー
- ・「新・明智光秀論」永青文庫古文書セミナー、2018年9月23日、肥後細川庭園松聲閣（東京都文京区）
- ・「日本における民主制の起源」朝日新聞プロフェッサー・ビジット、2018年10月4日、福岡工業大学附属城東高校
- ・「未指定動産文化財のレスキュー活動と歴史的価値」第2回 被災文化財復旧情報講演会、2018年10月21日、熊本日日新聞社本館
- ・「戦国～江戸時代の熊本における戦乱と災害—地域危機管理の原点を探る—」熊本市そなえる防災講座、2018年10月31日、くまもと県民交流館パレア
- ・「近世熊本城の被災と復興」保田窪一町内文化祭、2018年11月11日、保田窪一町内公民館
- ・「明智光秀と細川藤孝」舞鶴学講座2018、2018年12月8日、東洋大学白山キャンパス
- ・「近世熊本城の被災と復興」熊本ロータリークラブ卓話、2018年12月14日、熊本ホテルキャッスル
- ・「熊本大学貴重資料群による日本史研究の最前線」熊本大学研究フェア、2018年12月14日、熊本大学
- ・「島原・天草一揆と熊本藩」里山ギャラリー歴史・文化講座5 肥後細川家と天下人たち3、2019年2月9日、肥後の里山ギャラリー
- ・「戦国時代の相良氏」熊本さわやかパートナーシップ講演会 in 人吉、2019年2月25日、中小企業大学校人吉校
- ・「永青文庫細川家史料と地域史料—文化財レスキュー事業の経験から—」日本学術会議九州・沖縄地区会議主催「熊本地震の復興に貢献する熊本大学の学術研究」、2019年2月27日、熊本大学
- ・「細川藤孝の丹後入国と舞鶴」舞鶴市新指定文化財展「藤孝 来たる」記念講演会、2019年3月17日、舞鶴西総合会館
- ・「細川幽斎と『天下泰平』」茶道裏千家淡交会熊本支部総会講演、2019年3月31日、熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール大会議室

雑誌連載

- ・「永青文庫 歴史万華鏡」(36)～(47)『阿蘇』1032～1043号、2018年4月～2019年3月
- ・「細川家文書の世界」第12～15回『季刊永青文庫』No.101～105、2018年4月・7月・10月、2019年1月

新聞連載・寄稿

- ・「くまにち論壇 隠蔽・改ざんが破壊したもの」『熊本日日新聞』2018年4月27日朝刊
- ・「くまにち論壇 本能寺の変 消された『事実』」『熊本日日新聞』2018年7月29日朝刊
- ・「くまにち論壇 日本史における諫言の役割」『熊本日日新聞』2018年9月30日朝刊
- ・「くまにち論壇 次世代のために文書館を」『熊本日日新聞』2018年12月30日朝刊
- ・「くまにち論壇 (論題未定)」『熊本日日新聞』2018年3月31日朝刊

今村直樹

各種委員会

熊本県議会史編纂委員、国指定名勝及び史跡水前寺成趣園復旧整備検討委員会委員、宇土市高月邸保存活用検討会委員、愛知県史編さん委員会調査執筆委員、新修豊田市史編さん委員会執筆協力員、伊豆の国市史跡等整備調査委員会委員

論文等

- ・「『肥後の維新』を再考するために」(『総合文化誌 KUMAMOTO』第24号、2018年9月、pp.84-88)
- ・「シンポジウム『近世の駿豆地域と葦山代官江川氏』趣旨説明」(『静岡県地域史研究』第8号、2018年9月、pp.1-3)
- ・「近世中後期熊本藩の職制機構と服務規程」(熊本大学永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 熊本藩役職編』吉川弘文館、2019年2月、pp.309-336)
- ・「近世中後期の地域財政と地域運営財源—熊本藩を事例に—」(永青文庫研究センター紀要『永青文庫研究』第2号、2019年3月、pp.65-84)
- ・「伊豆石丁場と江戸城普請」(静岡大学人文社会科学部・静岡大学地域創造学環編『大学的静岡ガイド』昭和堂、2019年3月、pp.59-71)
- ・「第6章第3節 地域組織の改編と人々の動向」(愛知県史編さん委員会編『愛知県史 通史編5 近世II』愛知県、2019年3月刊行予定)
- ・「第6章第5節 ええじゃないかと大政奉還」(同上)
- ・「第7章第3節 変革期の社会」(同上)

研究発表

- ・「19世紀熊本藩領の行財政制度と地域社会」第90回経済史研究会、2018年4月21日、大阪経済大学日本経済史研究所
- ・「明治初年の旧葦山代官江川氏と『御囲地』」近現代史研究会11月例会、2018年10月、名古屋大学文学部
- ・「明治維新と地域行財政—明治3年熊本藩雑税廃止再考—」熊本史学会秋季研究発表大会、2018年12月8日、熊本県立図書館
- ・「問題提起 熊本藩からみた日本近世—比較藩研究の提起—」永青文庫研究センター主催シンポジウム「熊本藩からみた日本近世—比較藩研究の提起—」、2019年3月2・3日、熊本大学全学教育棟
- ・「近世中後期藩領国の地方行政と荒廃農村対策—熊本藩と尾張藩を中心に—」同上

講演

- ・「熊本大学永青文庫研究センターの活動と震災後の『資料レスキュー』の取り組み」日本学術会議人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会第2回会議、2018年4月9日、関西学院大学東京丸の内キャンパス
- ・「細川家歴代当主所用甲冑と明治維新」熊本被災史料レスキューネットワーク講演会「被災史料が語る日本近世・近代史」、2018年5月6日、熊本県立美術館
- ・「『肥後の維新』をとらえなおす—幕末政局・藩政改革・学校党—」熊本県博物館ネットワークセンター企画展「知られざる明治の熊本人」講演、2018年8月5日、熊本県博物館ネットワークセンター
- ・「明治維新と地域社会」2018年度第2学期放送大学面接授業、2018年10月20・21日、放送大学熊本学習センター
- ・「近代日本の学校教育と熊本藩—藩校時習館から第五高等学校へ—」五中・五高・熊大130周年を祝う会(武夫原会大同窓会)講演、2018年11月4日、熊本大学文法学部
- ・「古文書を読む」熊日生涯学習プラザカルチャー講座、2018年度毎月第1・第3月曜日、びぶれす熊日会館

シンポジウムパネリスト

- ・「熊本の維新と近代日本の可能性」明治維新150年関連シンポジウム(熊本県博物館ネットワークセンター、くまもと文学・歴史館主催)、2018年10月7日、熊本県立図書館
- ・「知られざる熊本の明治維新—西南戦争前夜—」九州文化財研究所創設25周年記念シンポジウム、2019年2月9日、市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)

後藤典子

論文

- ・「ガラシャの子・細川忠利とキリスト教」(熊本県立美術館図録『細川ガラシャ』2018年8月、pp.147-149)
- ・「島原・天草一揆以前における肥後細川家のキリスト教政策(上)」(永青文庫研究センター紀要『永青文庫研究』2019年3月、pp.27-63)

三澤 純

各種委員会

熊本市町界町名審議会委員長、くまもと文学・歴史館協議会委員、御船町文化財保護委員

論文等

- ・「民政へのまなざしとこころ—もう一つの『肥後の維新』—」(『公徳』Vol.34、2018年)
- ・「幕末維新时期の『民間社会』像を求めて」、『山口県史の窓』、2019年3月刊行予定

研究発表

- ・「幕末維新时期熊本の「ちょぼくれ」について—付.『山口県史』幕末維新編に参加して—」、熊本近代史研究会、2018年5月12日(土)、於熊本市市民会館第2会議室
- ・「幕末維新时期熊本藩の民政課題と惣庄屋集団」、2018年度熊本史学会秋季研究発表大会、2018

年12月8日（土）、於熊本県立図書館会議室

講演

- ・「民政へのまなざしとこころ—もう一つの『肥後の維新』—」、熊本公徳会「こころの時代を考えるセミナー」、2018年4月7日、於熊本公徳会カルチャーセンター
- ・「西南戦争と八代—視点を交えれば見えてくる！—」、八代市立博物館未来の森ミュージアム特別講演会、2018年9月29日
- ・「新出有馬家文書の概要と井寺古墳関係史料発見の意味」、第5回熊本被災史料レスキューネットワーク主催講演会「被災史料が語る井寺古墳—未指定文化財と国指定史跡とのあいだ—」、2019年12月15日、於熊本県立美術館本館文化交流室
- ・「新出有馬家文書の概要と井寺古墳関係史料発見の意味」、熊本県立装飾古墳館「熊本地震と装飾古墳」集中講座、2019年1月19日、於熊本県立装飾古墳館集団学習室
- ・「熊本藩の民政と明治三年藩政改革」九州文化財研究所創設25周年記念シンポジウム「知られざる熊本の明治維新—西南戦争前夜—」、2019年2月9日、熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール大会議室

竹島一希

著書（共著）

- ・『慶長・元和和漢聯句作品集』（臨川書店、2018年2月、pp.163-167、203-207）

論文等

- ・「故事と連歌と講釈と—『故事本語本説連歌聞書』」（『アジア遊学（日本人と中国故事—変奏する知の世界—）』223、2018年9月、pp.116-127）
- ・「『故事本語本説連歌聞書』考（承前）」（『国語国文学研究（熊本大学）』51、2019年3月、pp 未定）

講演

- ・「『秋夜長物語』の世界」里山ギャラリー—歴史・文化講座1、肥後の里山ギャラリー、2018年4月14日
- ・「永青文庫と『旅』」第13回熊本大学附属図書館永青文庫セミナー、熊本大学附属図書館、2018年11月3日

安高啓明

各種委員会

勝海舟記念館（旧清明文庫）整備事業推進委員会委員・展示委員会委員・作業部会委員会、八代市立博物館未来の森ミュージアム協議会委員、天草市立天草キリシタン館運営委員会委員、上天草市史編纂委員

著書

- ・『トピックで読み解く日本近世史』（昭和堂、2018年4月）全263頁
- ・『踏絵を踏んだキリシタン』（吉川弘文館、2018年6月）全268頁

論文等

- ・「踏絵認識論—日本資料と外国資料の検討を通じて」（國學院大學博物館・西南学院大学博物館編『キリシタン—日本とキリスト教の469年』六一書房、2018年9月、pp.107-115）
- ・「『踏絵』を見直す」（『本郷』137号、2018年9月、pp.17-19）
- ・「享保期島原藩における唐船打ち払いと漂着船対応」（久保春香と共著）（『西南学院大学博物館研究紀要』第7号、2019年3月）
- ・「『公事方御定書』の伝播過程と法文認識」（『法史学研究会会報』第22号、2019年3月）

史料紹介

- ・「史料紹介『御穿鑿所引取書達書控（抄録）』（1）」（川端駆と共編）（『永青文庫研究』第2号、pp.27-50）

講演

- ・「踏絵の変容と潜伏キリシタン」國學院大學博物館・西南学院大学博物館特別展「キリシタン—日本とキリスト教の469年」講演会・シンポジウム、國學院大學学術メディアセンター、2018年10月6日
- ・「歴史学とは何か—島原天草—揆から考える」一日若駒大学、熊本県立玉名高等学校、2018年10月18日
- ・「天草キリシタン史と世界文化遺産」放送大学熊本学習センター『どこでも生涯学習』公開講演会、天草宝島国際交流会館ポルト、2018年11月18日
- ・「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」第六回熊本大学関西連合同窓会、太閤園、2018年12月1日
- ・「踏絵の実態と禁教認識の伝播」國學院大學博物館・西南学院大学博物館特別展「キリシタン—日本とキリスト教の469年」ミュージアムセッション、西南学院大学博物館、2018年12月8日
- ・「世界遺産のあるまち「天草の崎津集落」その普遍的な価値」、天草市民センター・ホール、2019年2月8日
- ・「島原藩のキリシタン政策」コレジョ市民文化講座、ありえコレジョホール、2019年2月9日
- ・「古文書入門」熊本市東部公民会自治会、2018年度毎月第1・第3水曜日

永青文庫研究センター年報
第10号 (2018年度)

発行日：2019年3月29日

発行者：熊本大学永青文庫研究センター
〒860-8555
熊本市中央区黒髪2-40-1
TEL 096-342-2304

印刷所：シモダ印刷株式会社